

参考学習1 数式を入力しよう

1 数式ツール

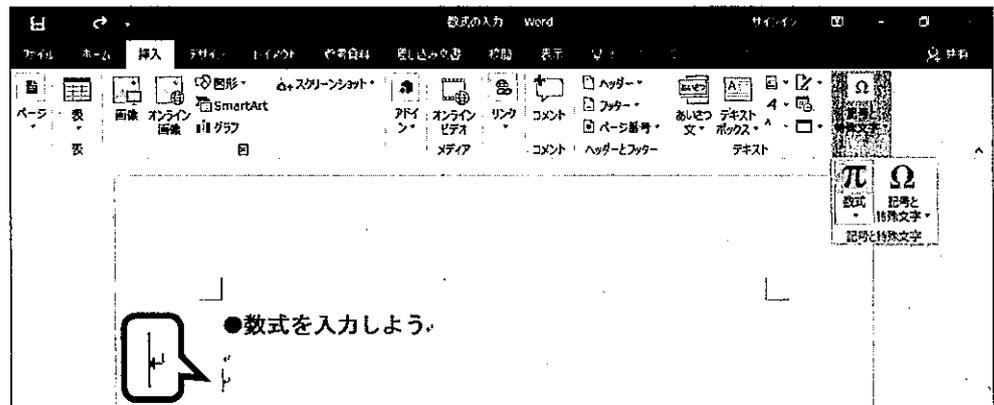
「数式ツール」を使うと、分数や上付き文字などを含む数式を簡単に入力できます。数式ツールを使って、次の数式を入力しましょう。

$$x = \frac{a^2 + 4}{2ab} - 2b$$

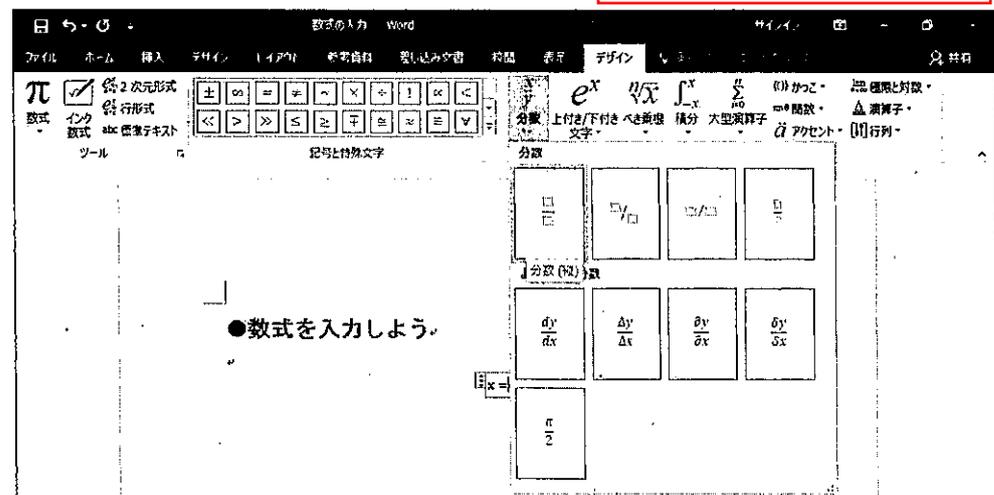


フォルダー「文書作成編」の文書「数式の入力」を開いておきましょう。

- ①文末にカーソルを移動します。
- ②《挿入》タブ→ (記号と特殊文字) → 《記号と特殊文字》グループの (数式の挿入) をクリックします。



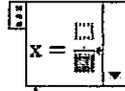
- ③《ここに数式を入力します。》が挿入され、選択されていることを確認します。
- ④「x=」と半角で入力します。 Ctrl + i を押すと、斜体になる。
※日本語入力をオフにしておきましょう。
- ⑤《数式ツール》の《デザイン》タブ→《構造》グループの (分数) → 《分数》の《分数(縦)》(左から1番目) をクリックします。 先に枠を作ってから入力する。



- ⑥分母と分子を表す枠が挿入されます。

⑦ 分母の枠を選択します。

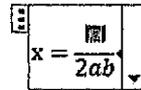
●数式を入力しよう


$$x = \frac{\quad}{2ab}$$

⑧ 「2ab」と入力します。

⑨ 分子の枠を選択します。

●数式を入力しよう

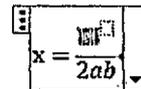

$$x = \frac{a}{2ab}$$

⑩ 《数式ツール》の《デザイン》タブ→《構造》グループの  (上付き/下付き文字) → 《上付き/下付き文字》の《上付き文字》(左から1番目)をクリックします。

⑪ 分子の右上に、べき乗を表す枠が挿入されます。

⑫ 分子の左側の枠を選択します。

●数式を入力しよう


$$x = \frac{a^2}{2ab}$$

⑬ 「a」と入力します。

⑭ 分子の右側の枠を選択します。

⑮ 「2」と入力します。

⑯  を押して、「a²」の後ろにカーソルを移動します。

※文字はカーソルのある位置に入力されます。カーソルの位置に注意しましょう。

⑰ 《数式ツール》の《デザイン》タブ→《記号と特殊文字》グループの  (プラスマイナス) をクリックします。

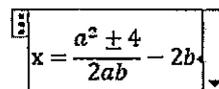
※  (プラスマイナス) が表示されていない場合は、《記号と特殊文字》グループの  (その他) → タイトル部分をクリックし、《基本数式》を選択します。

⑱ 「4」と入力します。

⑲  を何度か押して、「 $\frac{a^2 \pm 4}{2ab}$ 」の後ろにカーソルを移動します。

⑳ 「-2b」と入力します。

●数式を入力しよう


$$x = \frac{a^2 \pm 4}{2ab - 2b}$$

㉑ 数式以外の場所をクリックし、数式を確定します。

※文書に任意の名前を付けて保存し、文書を閉じておきましょう。



独立数式と文中数式

文字の入力されていない段落で数式を挿入すると、数式は「独立数式」で表示されます。
 文章の途中に数式を挿入すると、数式は「文中数式」で表示されます。
 独立数式と文中数式を切り替える方法は、次のとおりです。

◆数式を選択→ (数式オプション) →《文中数式に変更》/《独立数式に変更》

More その他の構造

数式ツールでは、分数や上付き文字など以外にも、べき乗根や積分、かっこなどの構造も挿入できます。

例:

$$\int \frac{1}{(2x+a)} dx \qquad \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a}$$

More 標準テキスト

《数式ツール》の《デザイン》タブ→《ツール》グループの (標準テキスト) を使うと、数学文字の書式を適用するかどうかを設定できます。

●ボタンがオンのとき
 数学文字の書式が適用されない

$$x = \frac{a^2 + 4}{2ab} - 2b$$

●ボタンがオフのとき
 数学文字の書式が適用される

$$x = \frac{a^2 + 4}{2ab} - 2b$$

※設定するときは、数式の枠の をクリックし、数式全体を選択します。

More インク数式

Word 2016には、数式を手書きすると、自動的に判別して入力できる「インク数式」という機能があります。
 インク数式を利用する方法は、次のとおりです。

◆《挿入》タブ→ (記号と特殊文字) →《記号と特殊文字》グループの (数式の挿入) の →《インク数式》

図は「数式入力コントロール」ダイアログボックスのスクリーンショットです。上部にはプレビュー領域があり、手書きされた数式が自動的に判別されて表示されています。下部には大きな入力領域があり、手書きされた数式が入力されています。右側には「挿入」と「取り消す」ボタンがあります。下部には「書き込み」、「消去」、「選択と修正」、「クリア」の4つの機能ボタンがあり、それぞれ番号3、4、5、6で示されています。また、右下には「挿入」ボタンが番号7で示されています。

- ①手書きした数式が判別され、プレビューが表示されます。
- ②マウスでドラッグしたり、タッチで手書きしたりして数式を入力します。
- ③数式を書き込みます。
- ④書き込んだ数式の一部をドラッグして消去します。
- ⑤間違っって認識された数式を選択し修正します。
- ⑥書き込んだ数式をすべて消去します。
- ⑦書き込んだ数式を文書中に挿入します。